



かぼちゃっこ

「笑顔きらきら・夢いっぱい・いきいきチャレンジ宮小っ子」

令和8年

1月16日

No.10



HPアクセスQRコード

2026 午年馬 馬のように颯爽と力強く駆け抜ける1年に！

1月8日（木）、令和7年度3学期がスタートしました。2週間の年末年始休業を終え、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。休み中、大きな事故や怪我などがなく、ご家庭で元気に過ごすことができたこと、ご家族や地域の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

3学期の始業式では、午年にちなみ、馬の姿から3学期に大切にしてほしいことを話しました。

1 「駆け抜ける3学期」

3学期の登校日は47日と非常に短い学期で、あっという間に過ぎていきます。馬が草原を颯爽と駆け抜けるよう、一日一日を大切にして、今の学年のまとめをしっかり行い、「やり残したことはない」と言えるよう全力で駆け抜けましょう！

2 「次のステージへの準備」

馬は速く走るだけでなく、次に走るべき道を見極める賢さも持っています。この3学期は、次の学年へ進むための「助走」の期間でもあります。今年度のまとめの3学期であると同時に、来年度の新しい学年の「O学期」もあるのです。今の自分に足りないものは何かを考え、4月からの新しい生活に向けて、しっかりと準備を整える期間にしましょう！

また、3学期初日にはさっそく書き初め大会を行いました。1、2年生は教室で、3年生以上は体育館で、これまで練習してきた成果を発揮しようと集中して取り組んでいました。



始業式 校長の話



1年生書き初め「なかよし」



2年生書き初め「大きなゆめ」



6年生書き初め「夢と希望」



4年生書き初め「生きる力」



展示された作品を見る子どもたち

置かれた場所で精一杯味く

お正月、テレビに映るのはやはり箱根駅伝。陸上をしていたわけでも、特に走ることが好きなわけでもないのですが、ついつい見入ってしまいます。史上初、2度目の総合3連覇という偉業を達成した青山学院大学の強さをさまざまと見せられた感のある今年の箱根駅伝でした。1区で16位という予想外の出だし、5区でタスキを受けた時点で3分以上の差、早稲田大学の「山の名探偵」こと工藤慎作選手が前を走っている状況。見ていて、「これは往路優勝、早稲田かな」と思っていました。そこから黒田朝日選手の信じられない走り。「あきらめない心」と「徹底した準備」があったからこそ、大逆転して往路優勝というドラマにつながったのでしょうか。しかし、ドラマは優勝校だけではないのが箱根駅伝の魅力の一つではないでしょうか。

私は、駒澤大学の佐藤圭汰選手の走りに魅かれました。佐藤選手は、大学入学時からエースとして期待されてきた選手ですが、故障に苦しみ、今年の箱根では、エース区間と言われる2区などではなく、最終10区を走りました。大会1か月前の怪我もあり、監督も悩んだ末の10区起用だったという記事も読みました。怪我さえなければ、また違った起用だったかもしれません。佐藤選手が走りたい区間もあったのかもしれません。しかし、彼は最終ランナーとして任せられた10区で、大会記録を塗り替える素晴らしい走りを見せました。本調子ではなかったかもしれません。エース区間ではなかったかもしれません。それでも、自分に与えられた場所で精一杯の走りをして、区間新記録。本当にすごい選手です。

学校生活の中でも、私たちの生活の中でも、うまくいかないこと、思い通りの役割にならぬことは山ほどあります。しかし、佐藤選手のように怪我をしてしまったことを過度に弁明することなく、自身の状況を受け入れて、置かれた場所で精一杯咲こうとする姿は、きっと周りにも勇気や力を与えるのだと思いました。毎年、数多くのドラマを生み出す箱根駅伝。選手たちの熱い思い、走りからたくさんのこと学ばせてもらいます。

